

平成25年1月16日（水）13:30～15:30

第6回 平成23年7月新潟・福島豪雨での只見川等の災害に関する情報連絡会 議事要旨

1) 災害復旧について

○福島県より、災害復旧関係資料に基づき説明。

- ・只見川・伊南川の災害復旧工事については、14箇所発注し12月末現在で4箇所が完成。
- ・叶津川災害関連事業については、現在3箇所工事発注、現在も工事中。事業区間内の残工事については、順次発注を予定。
- ・黒谷川の災害復旧助成事業については、8箇所工事発注を終えており、12月末現在で3箇所が完成。残工事については、順次発注を予定。

○国より、災害復旧関係資料に基づき説明。

- ・福島県からの只見川等河川災害復旧受託工事の進捗状況について説明。事業箇所は上野尻ダムから滝ダムまでの43箇所であり、38箇所が工事着手済、残り5箇所については年度内に工事発注をするべく、手続きを進めている状況。
- ・平成25年1月10日現在、7箇所工事完成。
- ・国道252号「二本木橋」、金山町道「西部橋」、只見町「五礼橋」の災害復旧事業の進捗状況について、資料に基づき説明。

○質疑応答なし

2) 只見川圏域河川整備計画について

○福島県より、只見川圏域河川整備計画について、資料に基づき説明。

○質疑応答なし

3) 発電事業者の検討状況について

①ダム情報の発信について

【説明内容】

○東北電力より、ダム情報の発信について資料に基づき説明。

- ・流域自治体からの要望を受け、平成24年6月より国土交通省の「川の防災情報」ホームページにて流域11ダムの情報提供を開始。
- ・平成25年6月の出水期を目処に、自社ホームページ上で流域11ダムの情報提供を開始する予定。
- ・出水期中当該ホームページを開設することを想定し、それ以外の期間はメンテナンス等を行う。ただし、各ダムの洪水量に到達するような気象状況が予想される場合には、ホームページを再開し情報提供を行う。

- ・ 自社所有の雨量観測所の情報についても当該ホームページに掲載する。
 - ・ 只見川本川以外に、観測所を設置している支川に関しては、その流量も情報提供を行う。
- 電源開発より、ダム情報の発信について資料に基づき説明。
- ・ 平成24年5月よりダム情報の通知・通報先を追加したことについて説明。
 - ・ 平成24年6月より国土交通省の「川の防災情報」ホームページにて流域4ダムの情報提供を開始。

【質疑応答】

福島県：宮下土木事務所への情報提供内容について、田子倉ダム・只見ダムの情報も追加して欲しい。

電源開発：承知した。詳細は後日個別に相談する。

福島県：東北電力の資料1ページ中「主要地点における河川流量と水位の関係」とあるが、主要地点とは具体的にどこを指すのか。また情報提供の対象となる支川は。

東北電力：当社で設定した地点ではない。要望を受けた箇所について設定をしたもので、実態としてはダムの横断側線に近い地点について試算をした形である。現在情報の公開を予定している支川は、野尻川、滝谷川、一ノ戸川、奥川、実川、常浪川である。(会議終了後、伊南川も対象であることを質問者に説明)

②ダム放流量低減に関する取組みについて

- 電源開発より、ダム放流量低減のための奥只見ダム・田子倉ダムにおける暫定運用について、資料に基づき説明。
- ・ 本暫定運用をダム操作規程に位置づけるため、平成24年8月に国の承認を受け操作規程を改訂。
 - ・ 平成24年の運用実績について説明。大規模な出水がなかったため実績なし。今後も暫定運用を継続し、検証を行う。
 - ・ 参考として、平成24年より導入した只見川上流域の降雨予測システムについて説明。まとまった降雨が少なかったため、降雨予測の過大・過小の傾向は確認できず。

【質疑応答】

福島県：平成24年は降雨が少なかったということで、暫定運用の実績がなかったということだが、具体的に運用したと言えるのは、2時間以上洪水量が続かないと実績として言えないのか。また降雨予測について、実績が予測を上回っている時間帯があるが、原因としては雨量が少ないからか。予測の目的はどこにあるのか。

電源開発：暫定運用は、大規模な出水が予想される場合に、河川の流量が洪水量に達する際に、貯水位が目標水位以下になるようにダム運用を行うもの。平成24年はそのような事態がなかったため、目標水位以下になるよう発電放流によって水

位を低下させる、あるいはダム放流によって水位を下げるといった行為がなかったという意味である。降雨予測システムは、様々な気象データを基に予想降雨量を計算するものであるが、非常に複雑なモデルであり、様々な要因によって予測と実績にズレが生じることはある。今後技術的な知見が高まれば予測精度の向上も考えられる。

福島県：大きな降雨があった場合の差異についてはどうか。

電源開発：平成23年7月新潟・福島豪雨のような降雨の予測については、今後精度を高め検証していきたい。

③ダム上流対策について

○東北電力より、ダム堆砂対策及び設備対策の概要について資料に基づき説明。

- ・平成23年度から平成24年度にかけて約9万m³の土砂を陸上から掘削。平成25年度も同程度、陸上からの掘削を予定。主に本名・上田調整池内を計画している。
- ・調整池内の被災した県管理護岸の復旧工事には、調整池の湛水を行わない等の協力を行う。また自社管理の被災した護岸についても、復旧を進めていく。
- ・平成26年度以降は陸上からの掘削に浚渫を加えた堆砂対策を実施する予定である。また、河川整備計画に基づく設備対策への協力も実施していく。

○電源開発より、滝調整池の緊急堆砂対策について説明。

- ・平成24年は、只見川と支川（蒲生川、塩沢川）との合流部付近において陸上掘削を実施。

【質疑応答】

金山町：電源開発分の今後の堆砂対策の見通しは。

電源開発：来年以降は検討中であり、この場は回答できない。
後日提示する予定である。

福島県：東北電力は堆砂対策を進めているようだが、今後の土捨て場の対応等は。
費用はかかるかもしれないが、浜通りでは土砂が不足している。

東北電力：現在は自社の土捨て場を使用しているが、将来的には厳しい状況が想定される。
新たな土捨て場の確保等を検討している。浜通りへの土砂運搬は、運搬距離や費用の面から現実的ではないと考える。

国：運搬距離はあるが、一方で浜通りの土砂不足という現状もある。福島県が中心となっている津波被災地不足土対策連絡調整会議に発生土砂量の情報提供をすることは可能

では。

東北電力：情報提供は可能だと思われるので、今後調整させていただく。

福島県：県としても調整させてもらいたい。

国：電源開発も情報提供できるか。

電源開発：可能である。

④本名ダム他下流減勢工機能改善対策について

○東北電力より、改善対策の検討状況について説明。

- ・ダム下流減勢工設備及び改造案について説明。各設備の概要について資料に基づき説明。
- ・本名ダム下流左岸部への導流壁設置位置について説明。
- ・本名ダムの対策案については、歯形シルは現状設備のまま、ダム下流左岸の導流壁設置案が最善であるとの検討結果を説明。
- ・上田ダムの対策案については検討の結果、減勢工は現状設備でも十分対応出来るものと判断したと説明。なお昨年出水と同程度の洪水流量では、下流域において水面変動が若干大きくなる兆候が確認されたことから、当該範囲の下流右岸護岸は余裕高さを考慮した河岸浸食等への対策が必要。
- ・本名・上田ダムともに、下流護岸の越水および河岸浸食等への対策については、設備管理者である福島県と協議を進め、対策の実施を図る。

【質疑応答】

福島県：導流壁の構造や安定計算については。

東北電力：導流壁の安定計算までは行っていない。現在水面下の地形測量を行っている。その結果を確認した段階で、構造や安定計算について検討を進める。

国：地元の方々が一番興味があることは、いつこれらの対策が実施されるのかだと思われる。資料中河川管理者との協議等記載があるが、どのようなスケジュールを考えているのか。

東北電力：資料6ページのスケジュール図に則り実施する予定。地権者が多数おられる等の事情もあり、平成25年度の出水期には間に合わせることは難しい。非出水期の秋口から冬ごろから何らかの行動が出来ればと考えている。

福島県：設計洪水流量で検証した実験は行っていないのか。

東北電力：設計洪水流量を超える流量で検証しているため実施していない。

国：資料15ページなどで「越水防止対策」という表現は、「河岸浸食防止対策等」が適切ではないか。

4) その他

【質疑応答】

福島県：昨年の滝ダムの不正に関する再発防止策について、その後の進捗状況は。

国：河川法に基づき再発防止策の提出を受けており、今後定期検査等の場でそれらがなされているか確認していく。

国：なお、次回の開催については、各機関の今後の進捗状況を見て調整する。